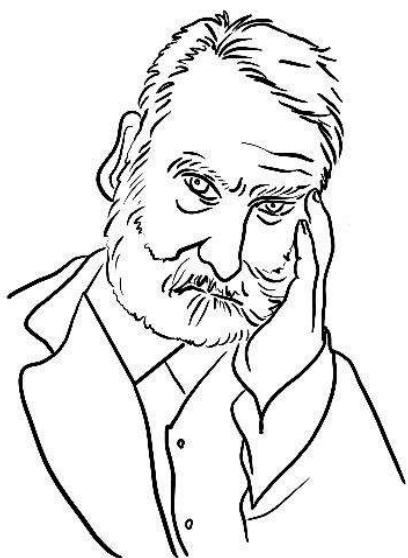




**早稲田大学大学院
文学研究科
フランス語フランス文学コース**

大学院文学研究科

フランス語フランス文学コースで 授業を担当している教員の紹介

2022 年度

教 員 名	専 攻 分 野	研 究 内 容
川瀬 武夫 2303	19 世紀フランス文学 近現代詩	①フランス文学における「近代」の成立と発展をフランス大革命以来の政治的・社会的激動の関連において研究する。 ②ボードレール、マラルメ、ランボー等、主として象徴主義の系譜に属するフランス詩を多面的に研究する。
鈴木 雅雄 2309	20 世紀フランス 文学・芸術	専門はシュルレアリスム研究。今後は特に、狭義の美術だけでなく、マンガや絵本、ポスターなども考慮に入れつつ、視覚文化論的な広い文脈でシュルレアリスムの造形活動を位置づけることを課題にしていきたいと思います。
瀬戸 直彦 2307	中世詩 中世文学 文献学	中世フランス抒情詩の解釈と校訂を研究しています。 ラテン語から、現代のフランス語にいたるあいだにあるオック語（南フランス語）やオイル語（北フランス語）で記されたものには何でも興味があります。
デュスッド, オディール 2302	古典文学 レトリック	17～18 世紀フランス文学研究（小説、演劇、詩）。 フランコフォニーの小説を含め、フランス語で表現している現代の小説家についても研究しています。
北村 陽子 2301	美術批評史 近代絵画	19 世紀の絵画とその批評。テキストとイメージの問題。諷刺画、本の挿画、写真、映画など。
酒井 智宏 33-1502	理論言語学 言語哲学	統語論、意味論、語用論の研究のほか、意味の成立基盤に関する哲学的考察、理論言語学の諸概念の科学哲学的検討を行っています。
ビゼ、フランソワ (東京大学)	フランス現代文学 思想	フランスの現代文学と現代思想の研究。

小黒 昌文 (駒澤大学)	フランス近代文学	フランスの近代文学、とくにプルースト研究。
----------------------------	-----------------	------------------------------

☆ 教員名の下に数字は研究室番号

☆ コース室：39 号館 3 階 2319

☆ コースのメールアドレス：salut@list.waseda.jp

☆ HP：http://flas.waseda.jp/french/

☆ Twitter：早稲田仏文 officiel (@WFutsubun)

文学研究科フランス語フランス文学コース

2021 年度修士論文題目一覧

- ・アンドレ・ブルトンにおける神話の問題について
——記号の残存とシニフィアンの誕生
- ・バルザック作品における「もの」の移動
- ・ジャン／ハンス・アルプとゾフィー・トイバー＝アルプの芸術活動における自律と連帯 —
—グリッドを中心に——
- ・クリスチャン・ディオール論
——個人に残る記憶、コレクションに宿る個性——
- ・ミシェル・ウエルベック論 ——「視点」「視覚」を考える——

2020 年度修士論文題目一覧

- ブルーストにおけるエクリチュールと身体感覚
- 初期バタイユの政治思想について
- 国際シュルレアリスム展における紐の意匠について
——マルセル・デュシャンを中心とした亡命者のイマジュリー——

2019 年度修士論文題目一覧

- マリヴォー『哲学者の書斎』における感化の問題
- 『教訓化オウィディウス』と『図説変身物語』の比較
——太陽神の恋を中心に翻案と図像から辿る表現の変遷——
- シャルル・バルバラ『感動的な物語集』論
- アンドレ・マッソンのオートマティスム
——1920年代シュルレアリスムにおける文学と美術の問題——

2018 年度修士論文題目一覧

- フィリップ・キノー『芝居じゃない芝居』La Comédie sans comédie 論
——「他とは全く異なるこの芝居」を考える——
- ヴィリエ・ド・リラダン クレール・ルノワール論
- ブルースト「スワンの恋」

2017 年度修士論文題目一覧

ミシェル・ド・モンテーニュ『エッセー』における「信と知」
メーテルリンク『温室』に於ける「人工」のテーマー主題・手法の観点から—
ルイ＝フェルディナン・セリーヌの作品におけるデリール表現と「選択（オルタナティヴ）」
の問題
30—50 年代の精神病理論を中心とするラカン理論の創造性の問題について
—シュルレアリスムと主体—

2016 年度修士論文題目一覧

トリスタン・ツァラにおける「近似」の概念
アンリ・ミショーにおける言語とイメージの問題
マリー・ンディアイの作品における家族崩壊
20 世紀における美容文化史の日仏比較

2015 年度修士論文題目一覧

アロイジウス・ベルトラン『夜のガスパール』研究—作品の構成をめぐって—
『エロディアードの婚礼』論
サルトルの美術批評とモラル
ルイ＝ルネ・デ・フォレ『オスティナート』—冒険的エクリチュールによる自伝—
マリーズ・コンデの小説作品における「喜劇性」

2013 年度修士論文題目一覧

バルザックにおける奇形
ボードレールにおけるダンディズムの変容
La féminité entre nature et factice dans *L'Ève future de Villiers de l'Isle-Adam*
ジョルジュ・バタイユにおけるテキストの演劇的＝パロディ的位相
—『ジル・ド・レ裁判』研究序説—

2012 年度修士論文題目一覧

L'effet noir de la mémoire : Études sur *Le Voyageur sans bagage* de Jean Anouilh
ジョルジュ・バタイユの小説と物語について
『人生使用法』における記憶のトポグラフィ—制約から記憶術へ—

2011 年度修士論文題目一覧

日本の大学におけるフランス語教育の現状と展望

代名動詞再考—その統一的理解を目指して、周辺事象の考察と提案—

アポリネールの『カリグラム』—見ること、魅せること—

ポール・ヴァレリー、語りのヴァリエテ—評論における言説の方法をめぐって—
ドゥルーズにおける時間イメージ

La chanson féministe et l'empowerment : le cas d'un groupe de musique québécois

2010 年度修士論文題目一覧

「貧しき縁者」に関する考察

L'errance dans l'oeuvre d'Albert Cohen

アルベール・カミュ論—『ペスト』という小説の試み—

マルグリット・デュラスのエクリチュールについて—「愛」を中心に—

シュルレアリスムの視覚体験とヴァリエーションの問題

—プリミティヴ・アート、アール・ナイーフ、ケルト芸術、霊媒芸術—